令和３年度第２回愛知県環境教育等推進協議会会議録

１　日時

令和４年３月 18 日（金）午後１時 30 分から午後２時 45 分まで

２　場所

愛知県三の丸庁舎　地下１階　Ｂ101 会議室

３　出席者

委員 12 名（うちオンライン出席５名）

４　傍聴人

なし

５　会議の概要

（１）開会

（２）あいさつ

環境局長

（３）議事

ア　県の５事業から得られた知見について

事務局から資料１及び参考資料１について説明。

イ　愛知県環境学習等行動計画２０３０の中間評価について

事務局から資料２及び参考資料２について説明。

ウ　その他

特になし。

【質疑応答・要旨】

ア　県の５事業から得られた知見について

（伊藤委員）

資料１で集約されたものだけを見ると、誰が対象か、分かりにくいように感じるので、対象の学齢や年齢を書いておくと、一覧性が高まると思う。

また、この表だけでは、同一の対象者に五つの力を育てるプログラムだと思う方もいるかもしれないので、学齢ごとに対象が別れているものだと分かるように集約するのがよいのではないか。

（事務局）
　五つの力それぞれが一対一で事業に対応しているかというと、必ずしもそうではない。あくまで、力ごとに代表する事業をとりまとめるということで、資料１を作成している。
　資料１として一般化するにあたり、事業の内容を知らなくても分かるように、あえて詳細を書かずに作成しているが、ご議論を踏まえて修正等をしていきたいと思う。

（新海委員）
　とても満足している資料である。しかし、一例として提示するのはいいが、このプログラムを実施すれば必ず記述した力がつくようにとられるおそれがあるので、あくまでも記述した力を育むためのプログラムであるという見せ方の工夫は必要だと思う。また、参考資料１の今後の活用法を検討できたらよいと思う。
　体感する力を育む「もりの学舎ようちえん」は未就学児童が対象であるが、体感する力は全ての発達段階において育むものであり、スパイラルアップしながら育んでいく見せ方ができたらいいのではないか。

（服部委員）
　昨年度は佐屋高校、今年度は津島高校で、「あいちの未来クリエイト部」に参加した感想としては、五つの力のうち、「あいちの未来クリエイト部」は探究する力となっているが、実際に活動していると高校生でも体感する力や理解する力も身についてくる。身につく力というのは一つではないことから、そのあたりをうまく表現できるといいと思う。
　また、事業が単年度で終わるのではなく、継続的に実施していることが重要である。

（千頭会長）
　１枚にまとめるのに限界はあるが、まとめることにも意味があるということで、皆様のご発言のとおりだと思う。実際にはこの参考資料１が大事だと思うので、資料１と併せて見ていくこととする。
　資料１の体感する力のところで、工夫の４番目に、親子で参加し、保護者にも体験の方法を学んでもらうとあり、これは大事だと思う。「もりの学舎ようちえん」で子供だけが変わればいいのではなく、親も変わっていくことが求められるので、参考資料１の体感する力の成果と課題に、子供を通じて親にも意識してほしいという課題を入れると、資料１と参考資料１の整合がとれると思う。

（早川委員）
　県の環境学習コーディネート事業で、何度か講師をしたことがあるが、資料１や参考資料１を講師に配布する予定はあるか。
　資料として郵送されたりすると、改めて自分のやっていることを見直すことができると思う。

（事務局）
　個別ではなく、県のウェブページで広く発信することを考えている。

（千頭会長）
　早川委員のご発言のとおり、環境学習の講師等にフィードバックをしていく方法を検討していけたらよいと思う。
　堀尾委員からチャット欄で、「春日井市は、中部大学と共働で取り組みを進めているが、コロナで途絶えてしまいゼロから事業を検討しているところであり、資料１はとても参考になる。」というご意見をいただいた。

イ　愛知県環境学習等行動計画２０３０の中間評価について
（千頭会長）
　５年目の中間評価に向けて、資料２では、主にアンケートについて事務局から説明があった。中間評価はアンケートだけではないと思うが、事務局の考えはどのようか。

（事務局）
　評価のやり方は、悩ましいものがある。行動計画 38 ページに行動計画の進捗状況の把握について記載しており、定量的・定性的評価を行うこととしている。定性的評価は、五つの力ごとに代表的な事業について、毎年度ステップアップ・ワークシートによって把握するというものである。
　定量的評価は、プログラム参加者数、回数等の評価であり、これは、毎年度の第１回の協議会で県の環境学習等に関する取組について一覧でお示ししているもので、これらの積み上げが一つの評価となると思う。
　ただ、本計画の策定時の評価では、アンケートをもって評価していることを踏まえると、直接的な評価は、アンケートによるものと考えている。

（千頭会長）
　事務局では、アンケートの実施を主として考えているということから、次回のアンケートに関しアドバイス等があればお願いしたい。

（竹鶴委員）
　企業側としては、以前から、人づくりの必要性を感じているが、環境教育としての人づくりが体系化されているかというと疑問が残る。
　このため、企業に対してはその重要性を啓発するような内容、伝わりやすい言葉遣い等の工夫が必要だと思う。

（新海委員）
　資料２の１ページで事業者とＮＰＯの回答率が低いので、回答率を上げる工夫があるとよい。
　また、毎回同じ項目をアンケートして経年変化を見るのか、それとも、今後の施策の参考となるような項目を入れるのか。項目を変えるのであれば、気候変動、SDGs、ESD for 2030 等について、直接この言葉を使わないにしても、そのテーマでの実施状況や、各主体の関心が分かるようにしていただけるとよい。次回までにもう少し考えたいと思う。

（千頭会長）
　平たく言えば、何のために、そして、何を知りたいがためにアンケートを取るのかということ。先ほど事務局から、同じ項目の経年変化を見たいという説明があったと思うが、同じ項目だけか、それとも色々な内容を付け加えることができるのか。

（事務局）
　事務局としては、ご意見を踏まえて検討していきたいと考えている。平成 25 と 28 年度に実施したアンケートの項目は全く同一ではなく、追加したものもある。新たに入れるべきものがあれば、ご助言いただきたい。

（篠田委員）
　アンケート結果からは、環境学習は非常に行き届いているように見えるが、実際に環境が良くなったかというと、そうではない。環境学習が行き渡って理解が進んでも、結果が出ていないというのはやっていないというのと一緒だと言える人がいないといけない。環境教育をやりましたと答えても、中身を見ると 10 年やっても変わらず、やっているからいいよという自己満足に留まっていると感じる。そろそろ環境学習も、踏み込んだプログラムを作る時代に入っていると思う。

（伊藤委員）
　アンケートの項目は、変える余地があるということだが、経年変化を見るということで、質問はあまり変えないほうがいいと思う。
　また、県の事業において、参加者の追跡調査は非常に難しいが、参加の状況

のデータがあり、個人情報が守られるという前提で、どのような事業に参加した方がどのようになったかという、サンプル事例があってもよいかと思う。

（千頭会長）
　最初に評価の枠組みを事務局に聞いたのは、五つの力の評価をどうしていくか検討するためである。例えば、「もりの学舎ようちえん」であれば、プログラム実施後の評価として、実施者側と参加者側のアンケートもデータとして評価に加える、他の事業でも各関係者（主催者、参加者、企業等）に対しアンケートを実施していると思うので、それを評価に入れたらいいのではないか。五つの事業の効果が分かるのは、そのようなアンケートだと思う。

（大鹿委員）
　千頭会長が言われたように、アンケートの結果から、五つの力の現状を拾い上げられるようにできればよいと思う。
　アンケート結果をフィードバックする時に、このような講座を実施することで、実はこのような力を育んでいるというのを示すことができると、実施者側の気づきになるのではと感じた。
　また、アンケートの言葉が時代に合ってないので、主旨は変えずに、現状に合わせた言葉にした方がよいと思う。

（新海委員）
　アンケートは、経年変化を把握するための項目もあるが、新しく次の施策、事業を考えるために必要な要素を把握できるものがあるとよい。その際は、学習の効果や結果、理解して行動に結びついているのかを把握できるとよい。

（千頭会長）
　堀尾委員からチャット欄で、「春日井市は去年６月にゼロカーボンシティ春日井を宣言しました。2050 年の CO_2 排出量ゼロに向けた取り組みとして、市民は環境学習・環境教育として何を実施したのか、あるいは行政に何を求めるのかなどについて、アンケート項目として追加できないでしょうか。」という意見があった。
　皆様方のご意見を踏まえ、形式的に同じ項目を聞くということよりは、中間評価ができるように、項目も見直すという方向で検討してくこととする。

（岡田委員）
　今回ご議論いただいている、環境学習等行動計画 2030、これは 2018 年に策定し、５年目を迎えるので、中間評価をする際は、策定後の時代の変化を踏まえる必要があると考える。次回の協議会で、中間評価について具体的にご議論いだければと思う。

（松尾委員）

幼児は、学習の結果や成果が見える年齢ではないので、いかに自然と触れ合うかというところで、体感する力が大事だと思う。幼児が実際にどういう活動をしたのか、そしてどういう活動には変化が見られたのかというのものが、分かるとよいと思う。アンケートは、具体事例を集められるようなものもあるとよいと思う。

（千頭会長）

中間評価の全体として大事な柱はアンケートだと思うが、次回の協議会で中間評価全体とアンケートを検討していくこととする。

（４）閉会